

「考える会」十周年記念

「小野川と佐原の町並みを考える会」は、平成三年に発足し、十年間活動を続けて参りました。この五月に十周年を祝した、式典を盛大に挙りました。

平成十三年は、「考える会」が活動を開始してから十年を迎えた記念の年にあたります。

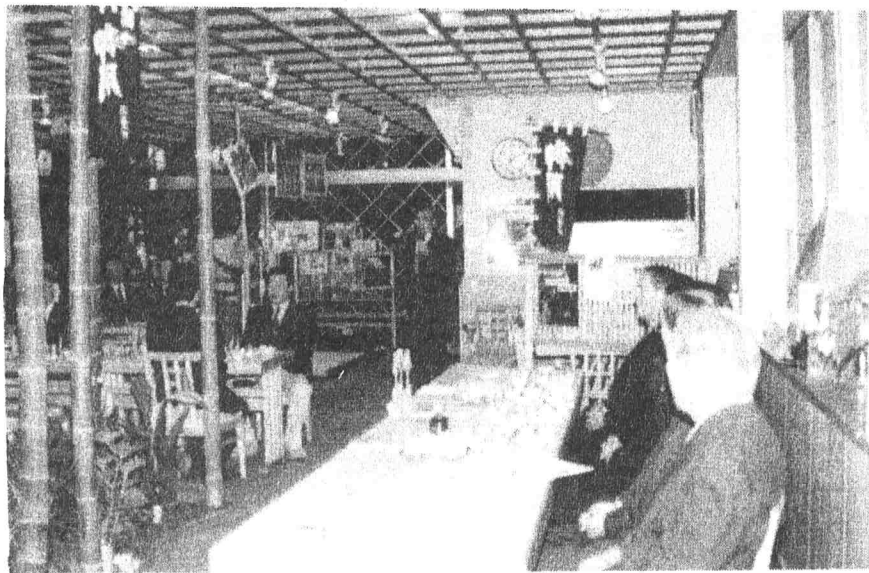
五月十日の定期総会終了後に、

十周年記念式典を忠敬茶屋で行いました。式典には、市・県関係者、水郷佐原観光協会、佐原商工会議所、佐原青年会議所、小江戸さわら会の方々のご臨席を賜りました。

平成十三年は、「考える会」が交換が盛り上がり、これまで培われたエネルギーが、町並みの活性化に向けて動き出すことを強く感じられました。また、考える会が作成した記念誌は三菱館に備えてありますので、ご覧ください。

来賓の方々からは、「考える会」のまちづくり活動に対し、地域活性への御礼とこれからの活動への励ましの言葉をたくさん頂戴し、会員皆々の喜びも一入でした。また、十年間の活動経過報告は、記念誌としてとりまとめ「町づくり十年のあゆみ」に目を通しながら、会員個人個人が、これまでの活動の中でそれぞれの苦労や喜びを甦らせるものでした。

その後の祝賀会では、これからのまちづくりについての意見



来賓の方々を迎えて十周年記念式典

講演会「佐原の魅力を考える」

六月の考える会定例会は、佐原出身の伊能久敬氏を講師にお迎えし、「佐原の街の魅力を考える」をテーマにご講演をいただきました。講演の概要をお知らせします。



講演に入った熱弁

な町並み、雄大な水郷風景など、無理にでも、物語ち上げなくても、物語が出来上がる観光都市の要素を持っています。今後は、観光都市として、物語に合ったみやげ物とゆったりとした

伊能さんは、仕事上、東京、大阪、広島など転々と十一箇所の都市を転勤し、全国三百箇所以上の街を見て回りました。そこで、感じたことは、ほとんどの街が近代化という病気に侵され、金太郎飴的な街並みになり、歴史と文化がなくなり後悔している都市が多い。佐原には歴史と文化が残っており、帰郷する度、佐原は本当に良い街であることを確信できます。現在、全国の中小都市の商店街に空洞化が起り、佐原も同様な状況にあるが、歴史と文化を残す佐原は街づくりのチャンスが多い。佐原には、香取神宮を始めとした神社仏閣、伊能忠敬、山車祭り、歴史

環境づくりが街の課題だと思います。一方、消費都市としての魅力づくりでは、毎日買物できる活気ある新鮮三品（野菜、果物、肉、魚）の市場が必要です。そこには、地元の農産物が毎日運ばれ、生き生きとした姿を演出する必要があります。街づくりの基本理念は歩いて買物物をさせることで、これが活気ある社会環境と収益性の高い商売を誘発させます。街の中の回遊こそが観光都市と消費都市を成功させる第一の条件です。佐原の街をマネージメントすることは、大変興味があることです。首都圏からの日帰りコースで、成田とは三十キロ程度の佐原「さあー、どのよう佐原を料理しましょうか。」皆さんで力を合わせ街づくりを進めようではありませんか。

防災だより



伝統的建造物群保存地区の防災対策の取組みをお知らせします。九月六日（木）、地域の自主防災

組織（八町内）の皆様による「まち歩き防災マップづくり」を行いました。自町内と隣町内を歩いて、防災上の問題点などを取りまとめ作業をしました。各町内ごとの発表では、それぞれの町内の特徴がしっかり把握されており、参加者の意識も高く、自主防災の取組みに大変期待ができ、心強さを感じました。今後も、問題点の整理や解決策の検討を行い、各町内で防災意識の共有を図って行きたいと考えています。自主防災会を通して防災事業のお知らせをいたしますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



新橋本・新上川岸の皆さんによる作業